

## トラックドライバーの負担軽減に向けて

3年1組11番 甲斐蓮華

keyword:「コロナ」「オンラインショッピング」「トラックドライバー」「再配達」  
「SNS」

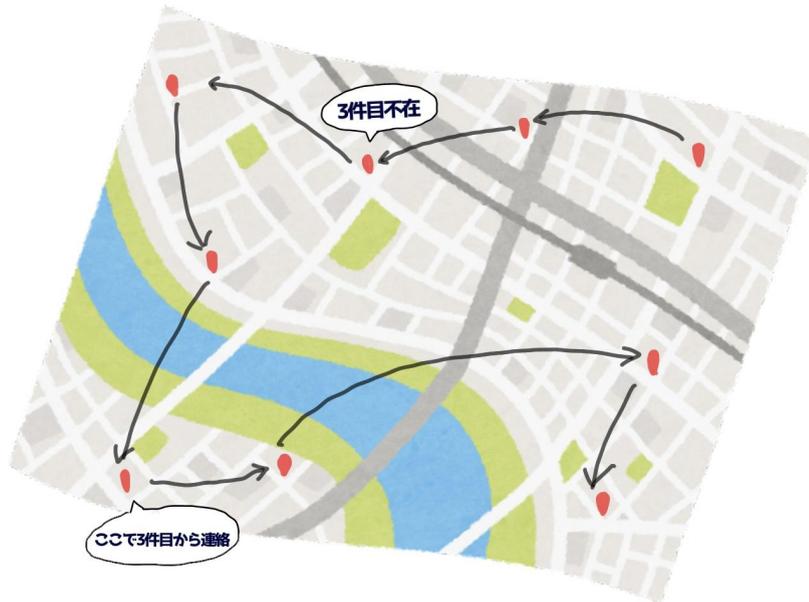
## 1. はじめに

新型コロナウイルスが蔓延し出した2019年頃にインターネット普及率は格段に上がった。かくいう私もスマホやiPadを活用し、日常を生活し授業も受けている。コロナウイルスという死をもともなう未知のウイルスが流行り出し、国からの緊急事態宣言やまん延防止対策などの影響によりオンラインミーティング、オンライン飲み会、オンライン授業などインターネットの需要が急激に上がったのである。近年、スマホやパソコンいわゆるインターネットの普及が常識となっている。2020年の総務省の記録ではスマホの普及率は68.3%、パソコンが50.4%、インターネットという単位で考えると83.4%と約8割というデータが出ており5人のうち4人がネットを使用しているという状況だ。それに合わせてウーバーイーツやオンラインショッピングなどによる所謂巣籠もり生活が普通となっていたのだ。そしてその中で一番脚光を浴びたのはオンラインショッピングではないだろうかとは私は考えている。家から出なくても日用品から食料、衣服になんでも揃えることができるようになった今欠かせないものとなっているのが配達だ。オンラインで手に入れられると分かった人たちは、わざわざ家を出ず、お得に買える利便性を重宝しているため、最近はオンラインで買うことが多いという人も増えているのではないだろうか。そんな発達した世の中で配達業界は多忙を極めてるように見え、配達員の負担を軽減するためこのテーマに決定した。

## 2. 序論

まず、人手不足が深刻なのではないかと考え調べた。トラックドライバーの求人倍率は平成30年の時点で全職業が1.49倍なのに対し、貨物自動車運転手は2.79倍となっている。それだけ各会社が人手を確保するのに苦労していることが窺える。また、40歳～54歳に含まれるドライバーの数値が44.8%にもなっており、これから人手不足はより深刻化していくと思われる。人手不足が加速するほど、一人当たりの負担は多くなる。運輸業界はさまざまなルールに縛られ、厳しい労働環境になっていないのだろうか。急激な時代や生活変化による弊害はどのように運輸業界に影響し、課題とされてるのか。トラックドライバーの負担を減らすために高校生の私にも出来ることはないのだろうか？インターネットや本で得た理論だけでなく、現場の意見も大事であると考え、運送会社のフジトランスポートさんにお話を伺った。フジトランスポートさんは今、SNSを活用した求人および広報活動に力を入れた影響で人手不足の状況からは脱そうとしてきているようである。目下の問題としては再配達問題が挙げられるようだ。コロナが終息し始めている今でも、セールなどお得な商品を求めてオンラインショッピングをする人は増加傾向にある。2022年の統計によるとインターネットショッピングを利用する人は、15歳以上の国民の3分の1である36.5%となっている。そして、それと同時に再配達の割合も増えている。配達物の3割から4割は再配達となっている現状だ。この問題は政府にも注目されており、政策として送料無料表示の変更が要請された。荷主や消費者らの意識改革を目指し、物流コストを意識してもらう意図が込められている。

### 3. 本論



←図1

再配達はなぜ減らさなければならぬのだろうか。結論から言うと、デメリットが多すぎるのだ。まず、トラックドライバーに着目すると労働生産性が悪いことがわかる。国土交通省の2021年のデータによると再配達にかかる時間は年間1.8億時間とも言われており、ドライバー9万人分の労働時間に当たるといふ。10人に1人が1日中再配達のためだけに働いている計算になるのだ。図1からわかる通り、

途中の家が不在で他の家から優先的に回っていた際にその家から遠い場所においても、再配達を指定の時間に届けなければならなくなってしまうので相当なタイムロスが生じることがわかる。それに相まって、トラックドライバーの人口は減少していることもあり、トラックドライバーの負担は計り知れない。他にも、トラックから排出されるCO2の量の多さも懸念材料とされており、再配達分で排出されるCO2は年間42万トンに上るといふ。再配達を減らすことが出来れば、地球温暖化にもいい影響をもたらすだろう。そして、宅配関係の顧客のストレス1位として「指定した日に荷物を受け取れなかったこと」が挙げられている。再配達になるのは、スマホを落として画面を割ってしまった時に感じるストレスと同程度というデータもある。顧客である私たちのストレスや満足度にも再配達は大きく関わってくるのだ。では、どうすれば再配達は減るのだろうか。私たちにもできる対策を調べたところ、国土交通省の文献により、再配達を減らすのに簡単な方法が多数あることがわかった。みなさんは宅配会社のアプリや公式LINEを利用しているだろうか。それらを使うことにより、コンビニや専門施設、機械での受け取りができるようになったり、確実に受け取り可能な日や時間に簡単に変更することができる。私も実際利用したことがあるが、5分以内に変更作業を終わらせることができたので、忙しい人でも素早く変更し、荷物を確実に受け取ることができるだろう。また、置き配を利用したり、宅配ボックスを設置することも効果的で、何かしらの作業をすることなく、簡単に確実に荷物を受け取ることが可能になる。どの方法もあまりお金をかけることなく、誰でも簡単にできることではあるが、利用者は少ないのではないだろうか。多くの方に方法を伝えることが必要なのだと考え、SNSを活用し広めようと考えたが、上手くいかなかった。

### 4. 結論

コロナウイルスが収まってきた今になれど、オンラインショッピングを利用する人は多い。その中で、トラックドライバーの方々は荷物を運ぶために毎日忙しく働いている。その方々のためにも地球温暖化を和らげ、より良い世界を生きていくためにも私たちは再配達させないために工夫していくべきである。SNSで広めることは難しいけれど、まず自分の周りの人たちに重要性和工夫の簡単さについて伝えることが大事だと思う。周囲の人に伝え、その人たちがまたそれを伝える。そうすれば、SNSを使わなくても多くの人に簡単に広めることができるはずだ。これから私が

大学に行ったり、社会に出たりしたとしても、再配達をさせないことの重要性を伝えていこうと思う。

#### 5. 参考文献・出典

全日本トラック協会

[https://jta.or.jp/wp-content/themes/jta\\_theme/pdf/yusosangyo2023.pdf](https://jta.or.jp/wp-content/themes/jta_theme/pdf/yusosangyo2023.pdf)

国土交通省

[https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/re\\_delivery\\_reduce.html](https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/re_delivery_reduce.html)

総務省

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r02/html/nd252120.html>